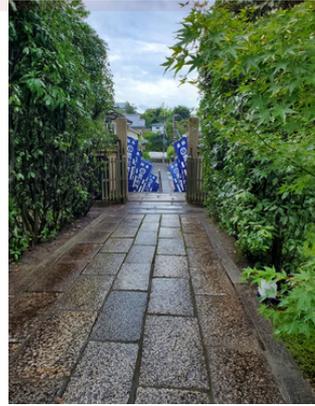


同志社大学商学部父母会 2024年度大阪支部企画 【第2弾】
『勝林寺 座禅体験と季節の和菓子・抹茶を楽しむ』
行事報告



大阪支部企画【第2弾】となる秋の行事を、10月19日(土)に開催いたしました。今回は京都五山にも列せられる名刹『東福寺塔頭 毘沙門堂<勝林寺>』です。募集開始から大変多くのお申し込みをいただき、当日は79名もの御父母がご参加くださいました。

好天の中でみなさまをお迎えでき、座禅が始まる頃には粉糠雨もありましたが、初秋の青紅葉には露が降り、風情ある趣を感じることができました。座禅体験では、「本堂」・「離れ」の造りの異なる2部屋に分かれ、静寂の中、神域で自己を見つめる貴重な体験をすることができました。

【勝林寺のなりたち】

紅葉の名所として有名な臨済宗の東福寺派大本山・東福寺の北側にある東福寺の塔頭寺院。戦国時代の1550年(天文19年)、第205世住持・高岳令松により「勝林庵」として創建されたのがはじまりです。本山東福寺の鬼門(北方)に位置し、仏法と北方を守護するところから“東福寺の毘沙門天”とも呼ばれているそうです。





【いよいよ座禅体験スタート！】

借景が見事な本堂のお部屋がこちら。座禅開始の時間になると、みなさん緊張の面持ちで姿勢を正される中、ご住職の説明にじっくり耳を傾けます。当のご住職、某有名人に似ておられるという噂も。座禅の〈座〉とは、「調身・調息・調心」です。

身体を落ちつけて動じない形に安定させ、心を一ヵ所に集中し定着させること。そして身と心とを融合統一し、身心を一如に安定させるのが呼吸です。そこで身・息・心の統一調和をはかるのが「坐」であるそうです。その後、座禅の型を教わるといよいよ体験の開始です。



本堂お部屋からの眺め



いよいよ開始。静寂が広がります。



座禅のご説明に耳を傾けて。

本堂と離れでは、ご住職による座禅体験の進め方やご法話の内容にも個性があり、いずれもウットに富んだお話に笑い声が絶えません。参加された方々の気持ちもひとつになり、静謐で清らかな空間に身を置いて心身の調和を目指します。



背を曲げている方は「警策」をいただいているところ。お部屋中にバチン！という音が響きます。



休憩タイムにホッと一息。足が伸ばせるって、幸せ～



こちらは〈離れ〉のお部屋。エアコンがあり、涼しく座禅体験。



【季節の和菓子とお抹茶をいただく】

座禅体験のあとは、お楽しみの季節の和菓子とお抹茶。

この日は秋の季節に相応しく、ほんのり色づいた紅葉を模った練りきり。お抹茶は一つひとつ丁寧に点ててくださったもので、心を整え静かに一服。しみじみ美味しく緊張した体もほぐれていくようです。



【秋の行事を終えて】

勝林寺のご住職をはじめ、おつとめの方々のお力添えのもと、本年の大阪支部企画「第2弾」も無事に終わることができました。ご参加くださった御父母のみなさまにおかれましては、ご多用の中、またご遠方より足をお運びいただき本当にありがとうございました。大阪支部役員一同、心より御礼申し上げます。日常から離れ、ひとときの貴重な体験をお楽しみいただけましたこと、嬉しいお声もお寄せいただきました。今後も御父母同士の絆を深めていただける大阪支部の企画にどうぞご期待ください！



< 離れ > のお部屋で参加者のみなさまと



< 本堂 > のお部屋で参加者のみなさまと